

## 第58回日本医学検査学会を終えて

米坂 知昭\*

第58回日本医学検査学会は、開港150周年でにぎわう横浜市のパシフィコ横浜において平成21年7月30日・31日・8月1日に開催され、全国からの学会参加者は3,702人(有料参加者3,360人、学生342人)と非常に多くの方々に参加をいただき盛会となりました。一般演題には526演題(口演484演題、示説42演題)の応募があり、活発な発表とディスカッションがなされました。また、機器・試薬展示会場へは延べ36,000人を超える方が入場され活気あふれる学会となり、皆様の御陰を持ちまして無事終了することができ心より感謝申し上げます。

本学会の準備は3年前から企画を含めスタートさせて参りましたが、開催が近づくにつれリーマンショックに端を発した100年に1度の世界的な経済危機や新型インフルエンザの蔓延で集会や学会等、多くの人を1カ所に集めることの自粛機運が高まり、学会自体の開催も危ぶまれました。今でこそ良い経験と思えますが、実の所は経済面や参加者数の面で不安な日々であり幾度となく企画変更も余儀なくされ、無事開催することができたことだけでも心から安堵しております。

本学会は、「健康社会創造に、医学検査はどんな貢献ができるのか？」をテーマに掲げ、私たち臨床検査技師が自らを問う学会と位置付けました。医療における検査技術の進歩は目覚しく、自己研鑽は勿論のこと、チーム医療における臨床検査技師としての役割も重要となり、その責任も重くなってきました。このことは臨床検査技師自身が持

つ知識や技術を積極的に活用し、医師をはじめとする医療職種の方々や一般市民の方々にどのように表現してゆくかが問われています。そこで、招待講演には、穏和な表現力の持ち主で横浜出身である作詞家の阿木耀子さんを迎え「自分らしく生きるために」をテーマにお話をいただき、生活環境の変化に対しても自己の存在価値を高めつつ、チャレンジする心と労りの心を学びました。また、特別講演では「遺伝子検査の標準化と新たな展開」と題し、宮地勇人先生(東海大学医学部基盤診療学系臨床検査学教授)に先端医療のトピックスについてご講演いただきました。また、高野靖悟先生(JA神奈川県厚生連相模原協同病院病院長)には「高度医療への臨床検査技師チームの参画」について、市中病院での生体肝移植の経験を事例に、一般病院における医療レベルの高度化が現実化している中、チーム医療における医療技術者の役割



写真1 受付風景

\*学会長、桐蔭横浜大学医用工学部 准教授 tyonesaka@yahoo.co.jp

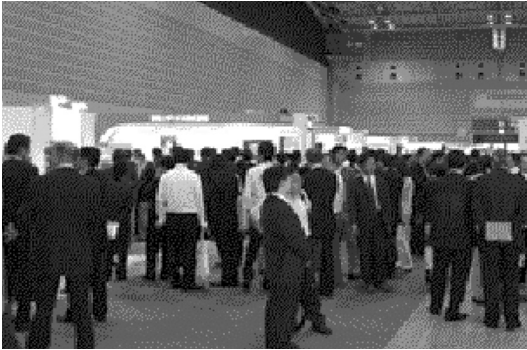


写真2 展示会場風景



写真3 ポスターセッション会場風景

をお話いただきました。更に、健康社会へ向けた臨床検査技師の一般市民・国民への直接的な働きかけが重要との視点から、岩室紳也先生(社団法人地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センター)には「若者たちの性感染症の現状と予防に求められる視点」についてご講演いただき、現在、日本臨床衛生検査技師会や各都道府県技師会が実施している性感染症撲滅に関する事業展開に大いに役立つものと思っております。このほか教育講演とともに特に今回、「神奈川特別企画」として臨床検査技師の社会貢献について、神奈川県技師会の取り組み・・・1)臨床検査技師こんなこともしています、2)地域への貢献、3)臨床チームへの参画、4)知識でSTDを撲滅しよう！を紹介しました。今後、都道府県各地で行われる“社会貢献への取り組み”の手がかりとなることが期待されますし、是非活用して頂きたいと思えます。

学会とは別の企画として、新たな試みとなった神奈川県臨床衛生検査技師会が主催し、日本臨床衛生検査技師会および関東甲信地区臨床衛生検査技師会の共催および厚生労働省、経済産業省、日本医師会、日本看護協会等々多くの後援を得て実施した「ケンサ EXPO '09」は、これからの社会貢献の一例として十分な効果があったものと考えております。このイベントはパネル展示による臨床検査の紹介や神奈川県技師会会員による検査実演、検査の重要性を紹介するためのステージ、企業展示等で構成されました。実際に開催初日からメディア等の取材、報道により開催4日間で5万3千人以上の一般市民の来場者があったことは予

想以上の展開となりました。また、このイベントに関する問い合わせも多く事務局に入っており、「来年はどこでやるのか?」「今度は必ず参加したいので、事前に開催日時が知りたい」など、あらためて健康検査に対する一般市民の関心の高さを痛烈に実感しました。規模は別としても今後も各地で開催される同様のイベントが、日頃縁の下の力持ちと表現される我々にとって社会的にも重要な役割を持つことは明白です。この「ケンサ EXPO '09」は、開催された期間が夏休み期間でもあったことから多くの小学生が「こどもワークショップ」に参加し、臨床検査を身近に感じてくれたことも大きな成果でした。臨床検査は今後もなくなることはありません。我々臨床検査技師のみならず医師や他の医療関連職種に興味を持ってもらえたことは、将来の医療業界の担い手を確保する上で有益なきっかけとなったことと思えます。このイベントでは採血も実施しHIV(希望者)や血糖、脂質、コレステロール等の測定を登録衛生検査所の協力で実施しました。その際、臨時診療所の申請に伴い、伊藤機一先生(日本臨床検査同学院前理事長)に院長をお願いしましたが、ご快諾いただき心より感謝申し上げます。また、来場者数の多さに昼食もろくに取れず検査を黙々と実施されていた臨床検査技師の皆様、安全にこのイベントを遂行していただきました実行委員の皆様の方の結集が、大過なく実施できた最大のポイントと思っております。本当にありがとうございました。

おわりに開港150周年を迎えた昨年の横浜市は、

各地で祝いのイベントが開催され活気に溢れており、そんな中、第3回 AAMLS 学会(学会長：小崎繁昭 日本臨床衛生検査技師会会長)と本学会が同時に開催され、例年になく国際色豊かな学会となりました。明治維新のきっかけとなった諸外国からの江戸幕府への圧力を現在の臨床検査技師に対する世情の圧力と考えれば時代刷新の好機と受け止められます。今後の臨床検査の発展に向け「ケンサ元年」と銘打ち、新たな一歩を踏み出す先掛けとなり、関係する多くの団体と協同で国民医療の向上に努めることが肝要と考えます。両学会が盛会裡に終了できましたことは、ご支援、

ご協力を賜りました齊藤幸弘学会実行委員長をはじめ、多くの実行委員の皆様、経済不況下にも関わらず趣旨をご理解いただきご参加いただきました多くの企業の皆様はこの場をお借りして、心より深謝申し上げます。

本年、5月に開催される第59回日本医学検査学会は和歌山県技師会の企画のもと神戸国際会議場にて開催されます。第58回と第59回学会開催までの間隔が短い中で大変なご苦労と存じますが、この学会が成功されますことを心より祈念申し上げます。